



新型コロナウイルス感染症 区分変更への対応

流政会 笠原 久恵

①施設や事業所での感染者発生時における市の対応について、内容や支援の実施状況を問う。
②2類から5類へ区分変更された場合、市内介護現場における感染対策の緩和策は。③事業者に対し区分変更の内容を説明すべきと考えるがどうか。

健康福祉部長 ①市内の介護保険施設などで感染者が確認された場合、感染症法上の届出義務はないものの、必要時に対策を講じるため、市に報告するよう依頼しています。報告を受けた際は聞き取りを行い、陽性者対応に関する助言や、必要に応じて検査キットや感染防護具を提供するなど支援をしています。
②国において、感染症の位置づけを5月8日から5類に変更することが示されたことを受け、本市の対策本部では、高齢者施設などでは引き続きこれまでと同様の対策を行うことを決定しています。
③5類への変更において高齢者施設などの感染対策に変更がある場合には、事業者などに必要な説明を行っています。



住宅地へのデータセンター 建設計画は中止を

阿部 治正

平和台地区へのデータセンター建設計画は、住民の理解、計画の現実性・実現可能性という県指針、また国が示す三条件を満たしていない。計画が前提の土地用途変更は間違い。実現しなかった場合、用途を元に戻すことは制度上不可能か。

まちづくり推進部長 国が公表したデジタルインフラ整備に関する有識者会合中間取りまとめは、災害時に共倒れとならないような分散、将来的な拡散の可能性も含めた面積確保などを重視し

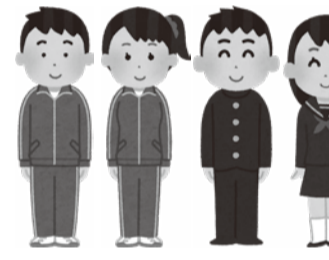


流山市立小中学校の 運営について

流政会 野田 宏規

①生徒指導提要の改訂も行われたため、市内各小中学校の校則をホームページなどで公開すべきと考えるがどうか。
②流山市立中学校で校内着をジャージとしていることの課題を述べたが、その後の進捗はどうか。

教育長 ①現在、生活の決まりや校則の見直しを図るとともに、ホームページでの公開に向けて準備を進めています。
②市内各中学校において、学校生活の中で制服、ジャージ、ウインドブレーカーなど、生徒の実情



流山市消防団の 現状と課題について

流政会 渡辺 仁二

市消防団の団員に対して行われたアンケートにおける質問項目のうち、消防団活動を通じて不満を感じる事として一番多い回答は「消防操法大会の負担が大きい」であった。このことについて、当局はどう考えるか。

消防長 同大会については、全国的にも競技内容が実践的でないといった批判や訓練が負担となっているといった声があり、今年度から全国消防操法大会の実施要綱が一部改正され、過度に団員の動作をそらえるとい

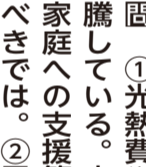


横断歩道の 安全対策について問う

自由民主党 中川 弘

道路交通法では、横断歩道における歩行者優先が定められている。安全対策がほとんど進んでいない信号機の設置されていない、横断歩道における安全対策について、優先順位を付け、順次実施してゆくべきと考えるがどうか。

土木部長 議員からご提案があったように、都市計画道路などの車両の通行が多く歩行者も多



中小企業や家庭への 市独自の支援策を!!

流山みらい 藤井 俊行

①光熱費や物価が高騰している。中小企業や家庭への支援策を講じるべきでは。②電子決済サービスの応援プロジェクトなどの活用で、市は、地域経済を盛り上げるための地域振興券や商品券などの発行、換金などが不要となる。検討しては。 ③経済振興部長 ①市独自の支援策として、運送事業者継続支援事業による燃料費補助の他、商品・サービスの開発や販路拡大などの新たな取り組みを行う事業者グループに、流山市事業者提案型売上アップ・プロジェクト応援補助金による給付などを行っており、別の支援事業実施の考えは

ありませぬ。家庭への支援は、国事業の住民税非課税世帯に対する電力・ガス・食料品等価格高騰緊急支援給付金を一世帯5万円、また市独自給付として、住民税均等割のみ課税の世帯に一世帯5万円支給しており、新たな支援策の予定はありません。②情報収集をしっかり行いながら、研究、検討していきたいと思



救急隊の増隊と 負担軽減について

公明党 戸辺 滋

日勤救急隊の運用は、令和3年の救急出動件数と比較して1935件増加し、過去最多の出動件数となりました。このことにより夜間勤務が難しい隊員の受け皿となるなど利点が多くあります。よって、早期に運用すべきと考えますが、当局の見解をお聞かせください。

消防長 現在本市では、救急医療体制について保有する人員、資機材を最大限活用するとともに、近隣市との応援体制の強化を図っています。本市の令和4年の救急出動件数は1万405件で、



2025デフリンピック 東京大会について

公明党 岡 明彦

2025デフリンピック東京大会開催を機に、デフスポーツやデフアスリートとつながり、知ることや障がいに対する理解が進むと考える。多様な性のある社会、共生社会をつくり上げていく機運醸成のため、啓発を進め

学校教育部長 デフスポーツの体験やデフアスリートとの交流は、子どもたちにとって、聴覚障害のある方々への理解を深めるとともに、障害の有無にかかわらず、誰に対しても差別や偏見を

議員が草稿を作成した記事において、特定の名詞の表記（「障害者」を「障がい者」と表記するなど）については、議員本人の意向を尊重して掲載しています。そのため、異なる表記が混在することをご了承ください。